

中国における休閒農業の発展状況

— 陽澄湖大闸蟹を活用した「漁家楽」の事例 —

農林水産委員会調査室 石川 武彦

1. はじめに

中国において「休閒農業」とは、農山漁村の自然環境や産物等の様々な資源を活用した観光、レジャーを発展させた新型の農業生産経営形態であり、中国版グリーン・ツーリズムを指す¹。

2011年5月、中国政府は「全国休閒農業発展第12次5か年計画」（以下「休閒農業発展計画」という。）²を策定し、この中で、「休閒農業は、農業発展方式の転換、農民の就業・増収の促進、新農村建設の推進、都市・農村発展の統一計画のアレンジメント、都市・農村住民の日増しに増大するレジャー消費ニーズの充足にとって、重要な意義を有する。」とした。

近年、目覚ましい経済発展を遂げた中国では、都市住民が憩いや癒しを求め、自然環境に恵まれた農山漁村への回帰思想あるいは憧憬を強く抱くようになってきた。このため、都市住民をターゲットにした休閒農業の発展が、農民の雇用確保や所得向上につながり、ひいては長年にわたる農業の低生産性、農村の低開発性、農民の貧困という「三農問題」解決の大きなカギになると期待されている。

本稿では、まず中国の農業・農村の最近の動向に触れた上で、同国における休閒農業の発展状況と課題について、第12次5か年計画を参照しながら記し、さらに、江蘇省の漁家楽³の事例を紹介することとしたい。

2. 中国の農業・農村をめぐる状況の変化

中国の人口は2011年に、都市人口が農村人口を初めて上回り、全人口の51.27%を占めることとなった⁴。都市住民の人口比率は、今後20年以内に75%まで上昇すると予測されている。

¹ 中国語で「休閒」は、「休閒地」（遊休地）など農地の状況を表す際にも用いられるが、「余暇」又は「レジャー」を表すことが多い。「休閒農業」は、農業を題材としたレジャー産業の業態を指し、一般に「鄉村旅遊」（農村観光）と呼ばれることも多い。

² 中国農業部「全国休閒农业发展“十二五”规划」（http://www.gov.cn/gzdt/2011-08/24/content_1931324.htm）
中国は1953年以来、「国民経済・社会発展5か年計画」を策定・実施している。2011年から2015年は第12次の計画（十二五）期間に当たり、休閒農業発展についても、同計画期間に合わせた計画の名称としている。

³ 「漁家楽」は漁家民宿や地場の水産物を利用したレストラン等の業態を指す。後述する「農家楽」と共に「休閒農業」の業態に含まれる。

⁴ 中国において「都市」（城市）とは、「中華人民共和国城市規劃法」に基づき設立された「直轄市」、「市」（地級市・県級市）及び「鎮」を指す。鎮は、農村地域の中でも、商工業が一定程度発達し、非農業人口が比較的集中している地域を都市の区分として指定しているものである。これらを除く「郷」が農村に相当する。中国語では「都市化」を「城鎮化」と表記している。2011年末の中国の総人口は、13億4,735万人。

国民所得をみると、2013年の都市住民1人当たりの可処分所得は26,955元(約45万円、前年比9%増)に対し農村住民1人当たりの純収入は8,896元(約14万9,000円、対前年比11%増)と3倍の開きがある。経済発展を2次・3次産業が強力に牽引する中で、1次産業総生産額も2004年以降の10年間で約2.7倍の5兆6,957億元まで伸びたが、対GDP比率はやや低下し、13.4%から10.0%となっている。

中国では、2000年代に「農民工」と呼ばれる農村からの出稼ぎ労働者が大量に都市に流入し、2008年の北京オリンピック景気を背景とした各地の大規模都市建設プロジェクトを支えた。一方、農村地域においては、郷鎮企業⁵が1990年代以降着実に力を付け、その付加価値生産額が2010年にはGDPの28.2%を占めるに至った。第3次産業分野の郷鎮企業の発展も目覚ましく、同年には2兆4,500億元と、中国の第3次産業生産額の14.3%を占めている。

この背景には、地方農村部のインフラ整備が進展したことや、改革・開放政策の下、沿岸部経済特区で成長した企業、外資による積極的な投資活動等による後押しがある。農村部においては、郷鎮企業が事業の一環として地元資源を利用した観光・レジャー産業や飲食業等を経営する例も多く、休閒農業発展の一つの原動力になっている。郷鎮企業の成長は、地元農民の雇用の確保・収入の増大に少なからず寄与していると考えられる。

3. 休閒農業

(1) 休閒農業発展の意義

休閒農業は、農林水産業とその生産物を利用した食品加工業、飲食業、観光業等の1～3次産業を有機的に連携させた新型の産業形態である。中国では、国民所得の増大に伴い、レジャー消費へのニーズが急速に高まっているため、休閒農業は、農業・農村における雇用機会や所得の増大を通じて「三農問題」の解決を促すとともに国民全体に利益をもたらす新成長産業として期待されている。

また、休閒農業は、都市・農村交流を通じて、都市の政治、経済、文化等が農村に反映され、住民の意識や生活習慣を現代化し資質を向上させるほか、農村文化の再発見や保護、伝承を促進する等の役割も果たすと考えられている。

(2) 中国の休閒農業発展状況⁶

中国における休閒農業の取組は1990年代以降発展し、近年では拠点数の増加とともに経営規模の拡大、形態の多様化がみられる。2012年末時点で、8,500の村で休閒農業の取組が行われ、休閒農業の経営体は170万に達している。そのうち「農家楽」(休閒農業の一形態で、日本の農家民宿・レストランに相当する)は150万か所を超え、従業者は2,800万人と、全国の農村労働力の6.9%を占め、利用客は年間延べ8億人で、営業収入は2,400

⁵ 郷鎮と民間事業者の共同出資に基づく中小企業であり、農村部の工業化・都市化の主要な担い手となってきた。拙稿「中国における『生態農業』の取組」『立法と調査』353号(平26.6)89～90頁を参照。

⁶ 前瞻産業研究院「2013-2017年中国休閒农业与乡村旅游深度调研与投资战略规划分析报告」の記載に基づく(原資料は国家旅遊局及び農業部資料。)

億元を超え、1,500万人の農林漁業者に収益をもたらしているとされる⁷。

中国農業部が全国13.5万の休閒農業の経営体に対して実施した調査によると、従業者の92.4%を農林漁業者が占め、土地1ムー（約6.7アール）当たりの産出額は12,000元と、全国の農用地の平均産出率の6.2倍、休閒農業の従事者1人当たりの平均生産額は年間5.41万元で全国の農業従事者の平均値の2.75倍となっている。

また、農山漁村観光、農林漁業体験、郷土料理等の様々なメニューを取り揃えた「農業レジャーランド」は1.8万か所、年間の利用者数は4億人（延べ利用回数は7億回）を超え、営業収入は1千億元に達している。

（3）休閒農業の形態

休閒農業は経営形態から見て、主に「単独農家型」、「複数農家協同型」及び「企業・農家連携型」の三つの基本モデルに分けることができる。

単独農家型は最も原初的なモデルであり、農民自らが経営主体となり自主的な経営を行うものである。比較的小規模であるため、提供可能な産品、サービス内容は限定されているが、農閑期の雇用の受け皿となり、集落の経済発展に貢献する。全国で急速に発展した農家レストラン・民宿形式の「農家楽」は同モデルの典型である。

複数農家協同型は、地域の農家の連携・共同経営により農村観光の開発を行うものである。消費市場から遠隔地にある農村では、企業が農村観光開発に介入することについて、農民に一定の抵抗感があるため、大多数の農家は企業に資金や土地を提供することを望まず、地域の模範的農家主導による開発に追随する傾向がある。こうした山村にあっては、通常、パイオニア的農家が農村観光開発に成功すると、周辺の農家が続々と事業参入し、経験とノウハウを習得して、一定期間の競合関係を経た後、共同経営に移行するケースが多いとされる⁸。このモデルでは、企業との連携型に比べ資本投入量が少ないため、事業規模に限界はあるが、比較的廉価で、企業的発想によるアレンジメントが加えられていない農村の素朴な伝統文化・習俗を体験できると評価されている。

企業・農家連携型は、企業主導により農村観光事業を開発、経営及び管理し、農家がいかに参入する点を特徴とし、通常は企業が農家の土地経営権⁹を買い取り、事業利益を農家

⁷ 農業新聞網は、2014年10月に開催された全国休閒農業経験交流会で発表されたデータとして、2013年末時点で、全国の休閒農業経営主体は180万を超え、利用客は年間延べ9億人、営業収入は2,700億元に達し、関係する農民2,900万人が受益しており、利用客数及び営業収入は年15%以上の増加率を維持しているとしている。また、2014年上半期だけでも利用客が延べ5億人、営業収入1,500億元に達し、3千万人の農民が受益しているとしている。中国農業新聞網「我国休閒农业成农村经济新亮点」

http://www.farmer.com.cn/jjpd/hyyw/201410/t20141031_992374.htm

⁸ 湖南省漢壽県の「鹿溪農家」は、2001年7月に2戸の農家により設立された農村観光事業者であり、パイオニア的農家として1年足らずの間に8,000元の純利を生み出した。この模範的効果により、2003年までに村全体の農家30戸中14戸が農村観光事業に参入し、地鶏や緑色（有機）野菜、川魚等の農産品の提供のほか民俗芸能の上演等を行い、「家禽養殖戸」、「有機野菜生産戸」というように専門分野別に各戸が担当する観光サービス組織を編成している。

⁹ 中国では、「中華人民共和國農村土地承包法」（農村土地請負法）に基づき、農村における集団所有の農地を農民が家族単位で請け負い農業生産を行う土地請負経営制度がある。さらに、「中華人民共和國物権法」は、土地請負経営権者は、経営を請け負った耕地、林地及び草地等について、占有、使用及び収益の権利を有し、栽培業、林業及び牧畜業等の農業生産を行う権利を有する旨規定し、土地請負経営権を用益物権として位置付け

に分配する方式を採用している。当該地域の資源や未利用の農家資産、余剰労働力をフルに活用することにより、バラエティに富んだ農村観光のメニューが生み出されるとともに、企業の総合的な管理を通じて、利用客の受入れに当たる農家のサービス水準の確保と向上が図られる。

これら基本モデルの発展型として、最近では、各地で特色ある自然や生態環境、伝統民俗文化及び経済発展レベルに即し、多種多様な方式やモデルが相次いで形成されている(資料1)。全体的な傾向として、分散型から規模集約型に、観光型から教育体験型に、他産業との連携・一体化経営にシフトしている。

資料1 休閒農業の発展モデルの類型

1 連続的開発型

行政が財政支出によりインフラ整備を主導し、農民と連携して集中的かつ連続的に観光農業開発を行うもの。農民は市場ニーズに基づき、当該地域で優位な農業レジャー観光プロジェクト開発を実施できる。北京市、上海市、南京市等の郊外では基本的に本モデルを採用している。

2 農民・市民協同型

農民の経営請負農地が流動化、集約を経て「レジャー農園」が設立され、都市住民が草花や野菜、果樹等を農民に委託して栽培又は自ら栽培するモデル。消費者が農業投資、生産、管理及び販売等に共同参画し、農民との緊密な連携の下、農業経営に参画又は農作業を体験する。本モデルは90年代に蘇州未来農林大世界で1区画50㎡を都市住民に貸し出した「市民農園」に始まるとされる。農家住居の賃貸による都市住民の農家楽経営や記念植樹等様々な類型、経営方式が見られる。

3 産業連動型

レジャー農園がまず特色ある農産物を生産、ブランド化し、休閒農業の場を通じて都市の消費者の購買を促進し、産業的發展を牽引するモデル。レジャー農園経営者が自らのブランドを登録し、自ら生産した農産物を都市の一定の販売ポイントで直売又は食品企業に卸す等の方式で、都市住民に人気がある。

4 村鎮観光型

多くの地域で農村建設が新たな局面を迎える中、休閒農業は地方小都市建設と一体的に発展しつつある。伝統的な農村建築と新たな農村の佇まいが観光客を引き付けている。主要な類型としては、農村民家型、少数民族村落型、伝統建築型、新農村風景型等がある。

5 レジャー農場・観光農園型

都市住民が休休日を利用して郊外へ出かけ、現代農業風景に親しみ、農作業を体験、レジャーを楽しむ等、農業に対する観光・レジャー分野のニーズは日々増大している。多くの農業技術開発区は単なる生産模範的機能だけでなく観光・レジャー機能その他の機能を兼ね備えた農業エリアに変化を遂げている。主要な類型としては、田園農業型、森林観光型、農業科学技術型、農業体験型等がある。北戴河「集発農業観光園」、北京「朝来農芸園」、上海「孫橋現代農業開発区」、珠海「農科中心示範基地」等が有名である。

6 科学・教育普及型

農業観光園、農業科技生態園、農産物展覧館及び農業博物館等を利用して、観光客が農業の歴史を理解し、農業技術を学び、農業に関する知識を増やすための教育活動である。農業園の主要な類型としては、農業科技教育基地、観光レジャー教育、児童教育農業基地、農業博覧館がある。農業科技園区は、科学技術教育部門の科学技術研究成果と実際の農業生産を連結する重要な紐帯として、農業科学技術研究成果の普及と新産業のインキュベーターとしての役割を果たす。

7 民俗文化観光型

本モデルは、農村の風土、人情、民俗文化等を観光のテーマとし、農耕文化、郷土文化の特色を前面に出して、伝統工芸、芸能、祭事等に触れるレジャー観光で、農村観光の主流になっている。

(出所) 百度百科「休閒農業」(<http://baike.baidu.com>) を参考に作成

ている。土地請負経営権の存続期間は、耕地が30年、草地は30～50年、林地は30～70年と規定されており、更新することができる。また、土地請負経営権者は、その権利を下請、交換及び譲渡等の方式により流通させることができる。

(4) 休閒農業の発展目標

2011年に始まった「休閒農業発展計画」の期間は、中国が「小康社会」¹⁰を全面的に建設する上でカギとなる時期であり、経済発展の方式転換を加速化する攻略期間と位置付けられ、都市・農村住民の所得向上、消費形態の転換、新たな農村インフラ整備に当たり、休閒農業は貴重な発展のチャンスを提供することとされた¹¹。

中国政府は、同計画に基づき、2015年までに、休閒農業を農村の1次、2次、3次産業に跨がる新興産業となし、農民の就業と増収を促進し、レジャーに対する国民のニーズを充足させる民生産業とするとともに、資源の制約を緩和し、生態環境を保護するグリーン産業とし、新型の業態を発展させ、内需拡大の柱となる産業に成長させることとし、資料2のような発展目標を設定している。

資料2 全国休閒農業発展第12次5か年計画に掲げられた休閒農業の発展目標

- 休閒農業の拠点を着実に増加させる。年間営業収入が500万元以上の休閒農業拠点を20%増加させ、利用者及び経営収入を15%以上増大させる。
- 組織的で、サービスが充実し、特色豊かで管理の行き届いた休閒農業産業を確立することにより、産業構造全体における地位を向上させる。
- 農家楽、レジャー農村、農業模範園、農業観光園、民俗文化及び農業祭事等の様々なモデルを創造し、斬新かつ利用者の興味をひき、実体験可能なものを更に増やしていく。
- 休閒農業集中地域において、休閒農業収入は農民の総収入の50%以上を占め、休閒農業に従事する農民の収入が、一般農民の平均収入の2倍となるようにする。
- 農業の機能を開拓し、農民の就業機会を大幅に拡大し、都市・農村の経済文化の融合を促進し、農村の状況を改善して、農民の総合的な素養を高める。

(出所)「全国休閒農業発展第12次5か年計画」を基に作成

(5) 今後の課題等

中国の休閒農業は、急速に発展しつつあり、ブランドを確立した休閒農業企業も育っている。観光資源の約7割が農山村地域に存在するといわれる中国にあって、休閒農業は、更なる発展のポテンシャルを有しているとみられるが、業界全体としては課題も多い。

近年、特に深刻化しているのは廃棄物問題である。利用客の増加に伴い処理しきれなくなった大量のゴミが、休閒農業に取り組む農山村に通じる道路の両側に土手を形成するなどの事例が各地で散見され、本来の自然・生態環境や風情が損壊されるような状況もある。

¹⁰ 経済、社会、文化、教育、環境等、あらゆる面で、より豊かさを実感できる社会水準を指す。2002年の第16回中国共産党大会では、「全面的な小康社会」を実現するために、2020年までにGDPを2000年水準の4倍に増大させるとの目標を掲げた。

¹¹ 中国共産党及び政府は、2000年代に入り休閒農業の発展を重視する姿勢を強め、「國務院観光業発展の一層の加速化に関する通知」(國務院关于进一步加快旅游业发展的通知)(国発[2001]9号)において、農業観光と体験型旅行活動の展開、農家楽、レジャー農村の標準的な発展が必要であると指摘した。また、地方の党委員会及び政府は、休閒農業を「三農問題」を打破する有効な手法として、政策資金を投入し、その発展の加速化を先導する必要があるとした。

このため、ゴミ処理の有効なスキームを確保することが、休閒農業のインフラ整備の要諦となっている。

また、利用者に対する安全及びサービスの品質を確保するための規範管理の徹底が重要な課題である。例えば、飲食や宿泊サービスの提供を伴う農家楽の営業に当たっては、まず関係法規に基づく衛生許可証、安全許可証、観光従事者就業前研修修了証、営業許可証等の取得が必要である。これらは、飲用水、宿泊業、レストランの衛生基準等に係る国家標準（強制基準）を満たしていることが前提となる¹²。

現場における実際のサービス水準については、政府系団体の中国農家楽協会が1～5星級のランク付けを行い、事業者のサービス向上と消費者へのアピールを図っている¹³。また、上海市のように行政単位ごとに農家楽のサービスをランク付けしている例もある。同市では2004年、全国に先駆けて「農家楽観光サービス品質等級区分」という地方標準を制定し、農家楽のサービスレベルに応じて1～3星級のランク付けを行っている。

「第12次5か年計画」も、全国的に休閒農業の経営管理や人材能力、サービスの水準が十分に確保されていない状況を改善すべきであるとし、中央及び地方政府は基本インフラ整備に対する支援に加え、サービスの規範化等を通じた的確な指導を行う必要があると指摘している。

中国農業部と国家観光局は、2011年の「第12次5か年計画」策定と併せて、全国の休閒農業及び農村観光の模範市（38地級市・県級市）及び模範拠点（100地区・団体）を認定し、これらが一層の模範機能を発揮し、全国の休閒農業及び農村観光の良好かつ迅速な発展を促進するよう求める通知¹⁴を発した。同通知は、農業及び観光の関係行政部門が模範県及び模範拠点の業務指導、宣伝を強化するとともに、業務の監督・検査を行い、模範県及び模範拠点における関連産業の持続的発展を促進することにより、全国に展開する休閒農業のレベルアップを図る狙いがある。

なお、国民の余暇増大と休閒農業発展の関係について若干付言する。

近年における中国の観光・レジャー産業、そして休閒農業の発展は、国民所得の増大に加え、週休二日制度の普及、法定休祝日の調整・改善及び有給休暇制度の導入が大きく影響している。

1995年5月1日から週休二日制¹⁵が導入されたほか、国民の休祝日を定める「全国年節及び記念日休暇弁法」（1949年制定）は2013年までに3度改正され¹⁶、年間の休祝日は当

¹² 中国の標準制度については、拙稿「中国食品安全法制の新局面」『立法と調査』302号（平22.3）61～64頁を参照。

¹³ 中国農家楽協会（China Country Retreat Association）は、農家楽事業に従事又は関する企業、家庭、団体、教育・研究機関等の関係者により結成された非営利社団法人である。同協会は、農家楽関係事業者の連携、規範の運用、情報交換及び研修等を通じて、業界の健全な発展に寄与することとされている。国务院国有資産管理委員会中国商業企業管理協会が主管し、農業部中国緑色食品協会及び文化部中国伝統文化促進会が指導組織となっており、メンバーには人民解放軍や芸術界関係者も多く名を連ねている。中国農家楽協会ホームページ（<http://www.zgnjlxhw.com/>）

¹⁴ 「农业部国家旅游局关于认定全国休闲农业与乡村旅游示范县示范点的通知」（2011年1月4日）中国農業部ホームページ（http://www.moa.gov.cn/govpublic/XZQYJ/201201/t20120104_2450046.htm）

¹⁵ 「国务院关于修改《国务院关于职工工作时间的规定》的决定」（1995年3月25日）に基づく。

¹⁶ 「国务院关于修改《全国年节及纪念日放假办法》的决定」（2013年12月11日）

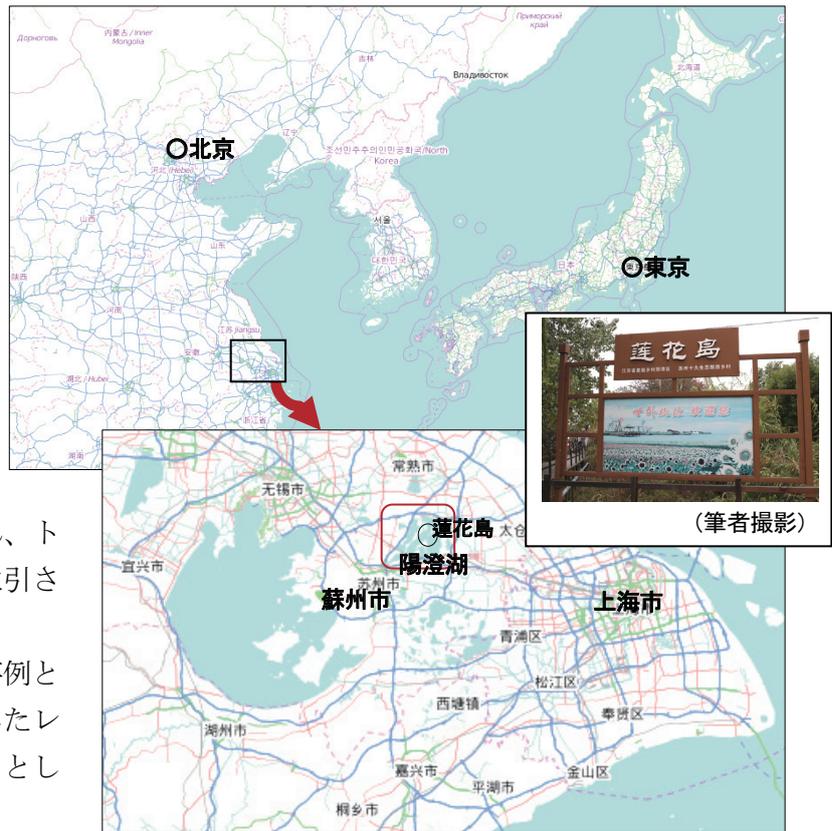
初の7日から27日に増加した。また、2008年に導入された年次有給休暇制度は、企業の従業員が累計勤務年数により10～20日間の有給休暇取得を可能とする内容となっている。国務院弁公庁は2013年2月、「2013-2020年国民観光・レジャー綱要」¹⁷を公表し、2020年までに勤労者の有給休暇制度を完全実施する方針を明らかにするとともに、小中学校の春季・夏季休暇制度の導入も検討するとしており、休閒農業の発展が更に促進されるとの期待も大きい。

4. 休閒農業の取組事例～江蘇省陽澄湖蓮花島の漁家楽～

平成26年11月、筆者は休閒農業の現場を視察するため、江蘇省蘇州市の陽澄湖・蓮花島を訪れた。

一般に、中国人が「陽澄湖」から連想するのは「大闸蟹」(だいきょうかに)つまり上海蟹(和名:チュウゴクモクスガニ)である。上海蟹は長江下流域の広範な地域で産出されるが、陽澄湖産は特に品質が高いとされ、トップブランドとして高値で取引されている。

以下に、休閒農業の参考事例として、陽澄湖大闸蟹を活用したレジャー産業の取組を見ることとした。



(出所) OpenStreetMap and contributors (地図はCC BY-SAとしてライセンス)を基に作成

(1) 陽澄湖周辺の農水産業

ア 概要

陽澄湖 (Yangcheng Lake) は、蘇州市の北東に位置し、蘇州市市区、工業地区、昆山市及び常熟市に跨る淡水湖の一つである。蘇州市の主要な水源として、蘇州市市区、昆山市及び周辺都市に居住する約100万人に飲用水を提供している。同時に、漁業、養殖業、工業用水、灌漑用水、観光、水運、洪水防止等の多様な機能を果たしている。また、湖周辺の湿地帯は水面の浄化作用と共に生態系バランスの保持と富栄養化防止作用等を発揮し、生物多様性保全のための重要な機能を果たしていると評価されている。

陽澄湖の水域面積は120 km²、湖岸線の総延長は100 km余りで、二つの半島により西湖、

¹⁷ 国務院弁公庁「国民旅游休闲纲要 (2013-2020年)」
(http://www.gov.cn/zwgc/2013-02/18/content_2333544.htm)

中湖、東湖にそれぞれ分かれている。

陽澄湖は、水産資源が豊富で、67種の淡水水産物を産出し、年間生産量は10,800トンに達する。中でも「清水エビ」「清水ケツギョ」「清水大闸蟹」は「陽澄湖三絶」と称され、特に大闸蟹は「蟹の王者」として内外に名を馳せている。

中国政府は、陽澄湖を「中国清水大闸蟹の郷」と命名し、国家工商行政管理総局商標局が「陽澄湖大闸蟹」を馳名商標（後述）として認定している。

【参考】陽澄湖大闸蟹について

1 中国の蟹食文化

中国の蟹食文化の歴史は紀元前3千年以前の先史時代に溯る。長江デルタ地帯においては、濞沢文化や良渚文化の地層から発掘される食用廃棄物中には大量の河蟹の殻が含まれている。

現在では、中国で良質の河蟹として、陽澄湖大闸蟹（江蘇省蘇州）、花津蟹（安徽省丹陽）及び勝芳蟹（河北省白洋淀）が三大名蟹に列せられ、高い評価を得ている。これらの蟹は、およそ20万haにわたり広がる低湿地帯で産出される。

蟹は一種の季節性の食品である。唐代の詩人李白は、「蟹螯即金液、糟丘是蓬莱。且須飲美酒、乘月醉高台（蟹螯（かいごう）は即ち金液、糟丘（そうきゅう）は是れ蓬莱。且（しばらく）須（すべからく）美酒を飲み、月に乗じて高台に酔ふべし）（カニのハサミの肉は、即ち不老不死の金液であり、酒糟の丘は、不老不死の蓬莱山である。ひとまずは一人で存分に美酒を飲み、美しい月光の下、楼閣の上で酔いなさい。）」月下獨酌四首其四」と詠んでいる。

巷間では、「秋風起、蟹脚痒」（中秋節を過ぎ秋風が吹き始めると蟹の足がむずむずし出す。）、「九月圓臍、十月尖」（旧暦9月（10月）は腹のくぼみが丸い雌が（卵巣が成熟して）旬であり、10月（11月）は腹のくぼみが三角形の雄が（精巣が成熟して）旬である。）とされる。

このように、中国では蟹を食することが伝統的に秋の風物詩となっている。

2 陽澄湖大闸蟹

一般に、「大闸蟹」と称されるのは「中華絨螯蟹」（学名：*Eriocheir sinensis*、和名：チュウゴクモクズカニ）のうち、1匹で3両（約150g）以上の重量があるものとされる。かつて、蘇州、昆山一体の蟹捕獲業者が、河川に竹を編み上げて閘門を築き、夜間にこの閘門を這い上がる蟹を捕獲したことに由来すると言われる。

陽澄湖大闸蟹は、江蘇省蘇州市陽澄湖蓮花島を原産とする。大きなものは1匹250g以上、最大で500gに成長し、青褐色を呈する背、白玉のごとき腹、黄色の長毛が生えた足、末端が金色の爪を備えていることがその特徴とされる。また、肉質が柔らかく滋味に富み、栄養が豊富である。他の蟹や水産物に比べ含有する水分が少なく、タンパク質、脂肪質、炭水化物及びビタミンA等の栄養成分を豊富に含有している。100gの蟹肉は、平均して炭水化物7g、タンパク質14g、鉄分13mg、ビタミンB20.71mgを含有し、熱量は139kcalである。

（出所）蘇州蓮花島旅遊網〈<http://www.lianhuadao.org>〉を参考に作成

イ 陽澄湖周辺の農水産業と休閒農業

陽澄湖周辺では、その気候特性に適した農水産業が従来から盛んである。耕地面積は11,200haで、花卉や野菜のハウス栽培が行われている。また、陽澄湖鎮では乳牛約500頭が飼養され、年間2,500トンの牛乳が生産されている。

水産業では、蘇州市相城区において、約5千haの「陽澄湖現代農業模範地区計画」が実施され、第1期として、2009年末には約900haの高規格水産養殖地区が完成し、既に生産が開始されている。引き続き第2期として、750haを高規格養殖池に改造する工事が2010年に完了した。

さらに、同計画に従い、模範地区内に、釣り、レジャー、グルメ、森林浴をテーマとした各エリアが完成し、運用が開始されている。この中で、約22haの「農耕実習エリ

ア」では、体験をテーマとした新たなプロジェクトが実施されている。これは、企業や個人家庭及び学生に農地をリースし、個々の事情に即して各種作物を栽培してもらうもので、農耕文化生活を体験するとともに、その労働成果を分かち合おうという狙いがある。

(2) 蓮花島の漁家楽

蓮花島は陽澄湖の中央部に伸びた約 450ha ほどの半島である。島内には 100 世帯余り・約 400 人が暮らし、そのほとんどは伝統的な漁業に従事、近年では、大闸蟹養殖の中心地として養殖事業が拡大している。

筆者は蓮花島で大闸蟹を活用した漁家楽を経営する施銀松氏（51 歳）を訪ねた。

上海市内から高速道路を西進し、約 1 時間半で陽澄湖岸に到着すると、近年整備された船着場で施氏が出迎えてくれた。蓮花島には道路も通じているが、施氏の住む集落までは湖岸から船で行くことになる。施氏は 6 万元（約 100 万円）で自費購入した 8 人乗りのモーターボートを自ら操縦する。走行中、蟹養殖の網囲いを両側に見ながら 10 分ほどで集落に到着した。



漁家楽経営者の船着場 施銀松氏（右）と筆者 漁家楽裏手の船着場（いずれも筆者撮影）

船着場を上がると、そこは施氏の自宅を兼ねた漁家楽となっている。50 m²ほどの中庭を取り囲む 2 階建ての家屋で、2 階部分には宿泊可能な部屋がある。来客用のトイレは水洗式で清掃も行き届いていた。

1 階の湖に面した一室は 5 年前に増築した宴会用の個室で 8～10 人が囲める円卓がしつらえられ、屋外にもテント張りのテーブル席が設置されている。施氏は、この 3 年間で、約 20 万元を投じ、200 m²の民宿スペースを整備したとのことである。



施氏経営の漁家楽（正面） 同左（前庭） 周辺の同業者（いずれも筆者撮影）

大閘蟹を蒸し上げるのに20分程度要するというので、その間、施氏宅周辺を散策することにした。

湖畔には漁家楽の看板を掲げる民家が20～30戸前後並んでおり、季節がら、赤首の大根や白菜の畑が続く。護岸は環境調和に配慮し、木製杭を基本として、一部はウッドデッキ状に整備されている。山羊の親子や水牛が繋がれ、観光客が触れ合える演出がなされている。

船着場や護岸の整備等、湖畔の環境整備は地元蘇州市が公共事業として実施したが、漁家楽を営む現地漁民は、民宿やレストランの整備を自前で行い、数10万元から100万元前後の費用を投じているとのことである。

蓮花島の中心部では日曜日ということもあり、多くの養殖業者が活蟹を販売していた。また、自ら収穫した大根や小豆等を販売する農家の女性も見られた。



蓮花島陽澄湖畔の散策道（風車）



同左（蓮池）



蓮花島中心街①（いずれも筆者撮影）



蓮花島中心街②



大閘蟹の販売



同左（いずれも筆者撮影）

（3）大閘蟹の養殖経営

施氏が陽澄湖で大閘蟹の養殖を本格的に始めたのは2000年9月からである。両親は現地で伝統的な漁業を営んできたが、施氏は蟹養殖専業に転換した。現在は妻と息子、収穫期等の繁忙期には2～3名のパート労働者を雇用している。

大閘蟹養殖の年間サイクルは3月に始まる。施氏は自ら、形質に優れた系統の雌雄を交配し種苗を育てている。孵化後に幼生が脱皮を繰り返し、1～2か月後に一旦選別を行った後、1～1.5mの浅瀬を仕切り網で囲ったスペースで専用乾燥飼料を与えながら肥育するという。そして、半年後の10月以降出荷時期を迎える。同氏の場合は、卸業者や飲食店関係者が直接買い付けに来るので、自ら市場まで運搬することはないそうである。

施氏は2013年の実績で約1.3トン生産した。蟹の卸値は500g（おおむね3匹）で約

80 元であるため、21 万元（約 380 万円）の売上げとなる。さらに、漁家民宿・レストランの売上げが 10 万元以上あることから、諸経費を最大約 7 割として差し引いても約 10 万元が残るとのことである。同年の中国農村家庭一人当たりの純収入が 5,919 元であるから、家族 3 人が就業する施家の収入は高水準にある。また、労働者年平均賃金 36,539 元に匹敵する額である。施氏は、投資総額の 5 倍以上の収入を既に得ていると語っていた。



蟹養殖用の囲い

生簍の蟹

陽澄湖大閘蟹

(いずれも筆者撮影)

(4) 偽装防止の取組等

10 年ほど前からは、陽澄湖大閘蟹ブームの到来で市場価格が上昇したことから、北京、上海を始め大都市では、別産地の蟹を陽澄湖産に偽装して流通させる状況が数多く見られるようになった。このため、真正品の大閘蟹を廉価で食したいと現地を訪れる観光客が増加したという。

中国政府は、地域特産品振興と品質確保、産地偽装の防止等を図るため、2006 年 3 月に「地理的表示産品陽澄湖大閘蟹」の国家標準を実施している¹⁸。同国家標準の規定に適合した蟹の生産者のみが地理的表示マークを付し流通させることができる。また、2008 年 7 月には陽澄湖大閘蟹の「馳名商標」登録も行われた¹⁹。これらの制度に基づき、各地の水産品市場では販売店の事前登録が行われるとともに、当局が検査を強化する等の措置が取られている。

ただ、蓮花島に通じる公道の路肩で販売される蟹の中には、他地域産のものも多く含まれているといわれ、当局の管理が徹底されているわけではないようだ。

陽澄湖大閘蟹は、いわば地域ブランドの優等生ではあるが、施氏ら漁家楽の経営者は、その名声の上に胡座をかいているわけにもいかない。上海を始め各地からのリピーターも



蟹の脚を紐でくくる施氏
(筆者撮影)

¹⁸ 「国家标准地理标志产品阳澄湖大閘蟹」(GB/T19957-2005)。2005 年 11 月に中国国家質量監督検査検疫総局及び国家標準化管理委員会が公布。陽澄湖大閘蟹地理的表示産品の保護の範囲、条件、検査方法、表示、包装、輸送等について規定している。

¹⁹ 中国馳名商標は、国家工商行政管理総局商標局が 2003 年 4 月に公布した「馳名商標認定和保护規定」に基づき認定される商標である。中国国内で広く認知された有名ブランド（商品又は役務）を登録し専用マークを付することにより、ブランドの模倣、名称の不正使用等の行為から関係事業者や消費者の利益を保護することを目的としている。2014 年 12 月現在の登録総数は 5,361 件となっている。

(「中国馳名商標」ホームページ〈<http://www.wellknown-mark.cn/index.htm>〉を参照。)

多いが、舌の肥えた客の批評は極めてシビアであり、蟹養殖のプロセスやレストランの設備管理、メニューの工夫など、手抜かりのないよう腐心する毎日という。

5. おわりに

2014年11月、中国農業部は「休閒農業の持続的かつ健全な発展の一層の促進に関する通知」²⁰を発出した。同通知は、「2020年までに休閒農業を農林水産業及びその従事者の増収、農山漁村環境の改善を促進する支柱的産業と成す。その産業規模を更に拡大し、利用客数及び営業収入を年平均10%増大させ、全国の3,500万人の農林漁業者に収益をもたらす」との目標を新たに掲げている。

中国の経済成長は、最近では7.5%を割り込み、減速傾向にある。中国共産党は、2015年の経済運営の基本方針を決定するために開かれた中央経済工作会议において、経済発展の速度は高速から中高速に転じており、「新常态」(ニューノーマル)にあるとした²¹。経済発展の方式を大規模粗放型から品質及び効率重視の集約型に転向するとともに、構造改革を堅持しつつ、新たな成長メカニズムの創造に当たる方針を示した。

中国経済の持続的成長を図る上で、三農問題の解決は引き続き最重要課題であり、休閒農業が農業・農村の総合的な発展に向けた成長エンジンとして果たす役割は益々大きくなると考えられる。中国政府は、2015年中に次期「休閒農業発展計画」を策定することとなるが、新たな発展目標の設定とその達成に向けた施策の展開が注目される。

最後に、今回の蓮花島視察に際し、繁忙期にもかかわらず案内とインタビューに快く応じてくださった施氏に改めて謝意を表したい。

(いしかわ たけひこ)

²⁰ 「农业部关于进一步促进休闲农业持续健康发展的通知」(2014年11月26日)
(http://www.moa.gov.cn/zwl1m/tzgg/tz/201412/t20141201_4259132.htm)

²¹ 新浪财经ホームページ「中央经济工作会议提出九大发展新常态」
(<http://finance.sina.com.cn/china/20141212/022421057163.shtml>)